

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 神学部図書室および学生控え室を、学生会の要望も入れながら整備する。	→学部図書室および学生控え室の整備。	C	B			
2. ティーチング・アシスタント (TA)、ラーニング・アシスタント (LA) の任用による教育研究支援体制を整備する。	→教養科目あるいは専門科目におけるTAならびにLAの任用者数(2013年度までに1名以上)。	C	B			
3. 研究時間確保のために教養教育科目における専任教員の適切な配置を図る。	→教養教育科目における専任教員担当科目の検証と専兼比率。	C	B			
4. 学院留学および特別研究期間の採用において、公平性を保ちつつ、効率的かつ戦略的方法を構築する。	→学院留学および特別研究期間採用者における選考基準の部内明確化(2013年度までに)。	D	D			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
	<p>(説明)</p> <p>PC・学部所蔵図書・雑誌の管理(教室管理を含む)、チャペル(礼拝)運営など教育的補助業務を行うことを意図して、教務補佐(常勤)4名および教学補佐(大学院生)5名を置いている。また2010年度は直接的に学びに関わる者として「基礎演習」の初年次教育において学部3・4年次生4名を、ラーニング・アシスタント(LA)として試験的に採用した。二度(中間および事後に)実施した合同ミーティングあるいは事後アンケートなどから、授業内ではディスカッションのファシリテーションなど、授業外ではレポートのテーマ設定や書き方の指導・相談など、担当教員とともに試行錯誤を繰り返しながら積極的に活動し、自らも成長したと感じた様子が見えてきた。文章作成とプレゼンテーションの技能を磨くことを意図した学外講師による事前研修は、2011年度から正課授業(集中講義)として単位化することを決定している。</p> <p>なお、学習環境の整備について、学部においては自治組織である「学生会」が、学生控え室の運営など設備に係る学生のニーズを集約し、学生主任を窓口として学部と調整を行っている。</p> <p>現在、学部図書室(大学院と共用)および学生控え室、PC等の機器に関する整備状況は以下のとおりである。特に学部図書室およびPC環境については大学院の自治組織である「院生会」の要望も取り入れ、概ねニーズを満たしていると認識している。</p> <p>■ 学部図書室： 大学図書館への配架分は除く。 蔵書冊数(システム登録済み冊数)： 図書 14,925冊(14,925冊)、和雑誌 81タイトル・908冊(551冊)、外国語雑誌 244タイトル・4,264冊(4,257冊)。 うち、2010年度購入図書について、専門領域別には以下のようであり、聖書学を中心に各領域を網羅している。なお、近年キリスト教文化領域(歴史神学を含む)の図書に関して増加が著しい。 旧約聖書学 91冊、新約聖書学 79冊、歴史神学 41冊、組織神学 54冊、実践神学 209冊、一般 21冊、Corpus 15冊。</p> <p>■ 学生控え室： 個人ロッカー： 在籍者数分を用意(計144個)。</p> <p>■ PC等、機器の整備状況： PC教室・ユーザPC・計20台、授業利用貸し出しノートPC・計2台(以上、大学院生と共用)。学生の要望により、聖書フォント(ギリシャ語およびヘブライ語フォント)を全学の標準PCに導入している(2011年4月より)。 授業において機器の利用は活発である。2011年度春学期は月～金曜日の授業計17コマにおいてDVD、CD、プロジェクタなど何らかの機器を利用してあり、うち13コマはPCを活用している(ネットワーク環境利用申請は計8コマ。ただし、持ち込みPCによる利用は除く)。</p> <p>2011年度における専任教員の授業担当時間(平均)については前年度までと大きな変化はないが、教養教育科目における専兼比率は36.8%と、昨年度の41.7%より低くなっており(大学基礎データ、表3)、専門教育への適切なシフトが進んでいると理解している。</p>
☆	その他

## 《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【神学部】			単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数	教学補佐	人	5	5	5	5	5	
		実験実習指導補佐・教務補佐	人	4	4	4	4	4	
		授業補佐	人	0	0	0	0	0	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	16.6	13.5	14.3	16.2	14.0	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	13.6	11.3	15.4	15.9	16.4	
		講師	時間	8.3	13.2	—	15.5	13.5	
		助教	時間	—	12.0	12.6	15.3	—	

(その他の指標データ)

専任教員の研究費(実績)【大学基礎データ】

専任の研究旅費【大学基礎データ】

学内共同研究費【大学基礎データ】

教員研究費内訳【大学基礎データ】

科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】

学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】

外部資金等導入状況【基本的な指標データ】

教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】

学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】

学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】

学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】

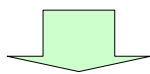
留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	学院留学および特別研究期間採用者における選考基準の部内明確化については検討を開始していない。
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	まずは考慮されるべき事項を明確にしつつ、どこで検討を行うかについて部内の体制を整える。
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○全般的に教育研究等環境は向上していますが、「学院留学および特別研究期間採用者における選考基準」の検討が求められます。

【学内委員】

○L Aについて、全学的導入に先駆けて試験的な活用が行なわれていることは評価できます。教員の研究環境については、さらに多様な視点からの現状および対応についての記述が期待されます。

○教養教育科目の専兼比率が低くなり、専門科目への適切なシフトが進んでいるとのことですが、神学部としての具体的に目指す比率(=適切と考える比率)を示すことで、目標3の進捗状況がよりわかりやすくなると思われます。説明で加えられればと思います。

○学部図書室やPC等機器の整備状況は、説明に記述されている状況が果たして適切なのかわかりかねます。学部が適切と考える状況や、学生の満足度等と照らし合わせてどうなのかという分析が必要と思われます。

○昨年度の学内第三者のコメントに対応された記述になっています。

○L Aの成果に期待します。

○研究環境などに関する記述も欲しいところです。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目9.0.4

基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」

○小項目9.0.4&9.0.5

達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★	なし
---	----